

昭和十七年度

豫算調書

十月八日 日曜日

今日は楽しい楽しい面會日だ

朝早くから目がさめた。

「雨がやんだかしら。」

「いって、さうとそつと外を

のぞいたりしてゐた。

「たしかに風だけよ。」

「うわ、うれしい。」

とひそひそ話をしたりして

ゐた。外へ出た時は、すこし

雨が降つてゐた。みんな少し

へんなかほをしたが急に



「青空 青空」

といふこゝに、ふと西の方を  
見るときれいな青空。

「晴れるわよ。きつとけれる

わよ。うれしいわ。」

みな元氣になった。

「あせね。うれしいわ。」

空を見ながら郊外園に向つ

た。

「昨日の雨はぬすれられるや

うわ。」

水たまりもなくなりとても

よいお天気。

十時半頃お母様がいらっしゃった。

荷物をはひらくと風が吹いて来て

なにもかもとんでしまふ。

そのうちに風呂へ行った。

今日は、名づけお雛じゆんなの

で私は一番だった。お風呂から

出るともうお晝のお食事だ。

いそがしいいそがしい。

お母様は、ごようがあるといっ

て、早くお歸りになった。

そのあとで満洲の兵隊さんへ

おもん文をかけた。



十月九日 月曜日

午後から、二班は、村野さんへふとん干に行った。私と鬼澤さんとで、二階から下へおろした。しきぶとんを出しをはってから、ねまきを出した。さうして四時までせいとんをしたり、お手玉をしたりして遊んだ。それからまたふとんを入れた。私はまた二階にゐた。さうして、はいて来たのを二階にあげた。郊外園にへるとすぐ夕食だった。今日はふりかけが

いた。とてもおいしいふりかけだった。村野さんへかへて下さった。昨日持て来て下さったお手玉で遊んだ。





十月十日 火曜日

午前中は、小平分しようへ  
草取りに入った。今日は畠の  
草を取った。土がやはらか  
くですぐぬけるので、おも  
しろいやうだった。歸りは  
いつものやうにまきを持って  
歸った。

午後は三、四班がふとん干に行く  
はずでしたが、曇っておるので  
中止になった。私はお洗濯を  
した。今日は、まかいものを  
洗った。それから、日記をつ  
けたりした。男の人たちは  
さいふ、藤先生にあたまを

かっていただいてみた。

すこししてから干してあるた  
たみを、のきの下へ運んだ。

夕食におこし、が  
た、と  
てもおいしい。

お洗濯

十月十一日 水曜日



朝會の前に顔を洗った。とて  
も氣持よくなった。



二時間目の圖工の時間に松  
 の木一本を寫生した。なか  
 なかうまく出来ない。  
 お書ののちさうに、あかつ  
 おのにたのにおこうだった。  
 とてもおもしろかった。  
 四時間目はお風呂だ。私は  
 がぜをひいてゐるので、のどを  
 ふいて、あしを洗った。早く  
 かぜをなほしてしまほう。  
 五時間目からリヤうよう所  
 へ体重を測定に行つた。私  
 は、さういふえた。もっとも  
 とふとりたいた。



歸つてからお八つが出た。ビ  
 スケット四つづつだった。たま  
 ごばんのやうでとてもおいし  
 かった。  
 村野さんへ歸つてから七時の  
 ほうどうを聞いた。すると、敵  
 は九州の沖なはまで来たさう  
 だ。私はびっくりして、いま  
 でもラヂオを聞いてゐた。  
 敵軍に近一



十月十二日 木曜日

今日、朝食の時雨がぽ

りぽりと降って来たので

お部屋へへった。

午後は神小平町の小川の

神明宮へ行軍した。分しやう

の前を通過して、青梅街道

へ出た。雨雨がはは並木が

つづいてとてもよい道だった。

かそのうちに、やっと神明宮に

ついた。太いくいかやの

木がなんぼんが立ってゐて

とてもふるいお宮だった。

そこで三十分間休けいが

あった。それから歸りは、

宿舎の方へ行つて歸った。

おうふうく二里あるいた

のですこしつかれてしまった。

おへつに大きなくかきか

出た。とてもおいしかった。

かき





十月十三日 金曜日

二時間目三時間目は、お洗濯をした。私は、保坂さんが手があわるいので保坂さんのおも洗ってあげた。洗ってゐると残留組の二人が元氣な顔をして來た。午後は作業で、七号地の整理をした。とてもゆかいな作業だった。おへんにパンを一つづつくださった。とてもおいしいパンだ。このパンは残留組へのはいぬ給を下さした。

うだ。

十月十四日 土曜日



二時間目の地理の時間は、お話をして下さった。とてもこわい、うれしいのお話だった。とてもおもしろかった。お晝休みに、五人でひきょうをした。このごろはボールもつ



かはないのでとてもおもしろかった。

四時間から、一班と四班でお風呂たきをした。水はリレー

式で運んだ。今日はとても

早く出来た。わいてから、一

番に入った。するととてもあ

つかった。

あついいあついい。

大きな聲でひめいをあげて

しまった。

今日のおへっけおいしい〜

どスケート四つづつだ。

今は四の五の〜も〜り  
村野さんへ歸つてから、

七時の大本營発表を耳聞  
いた。

今日は甲中さんへとまつてお  
た人たちといっしょにぬた。



カ  
ハ  
イ  
イ

ホ  
／

ル



十月十五日 日曜日

今日は、田中さんが出征なさ  
るのでいつもより早く起きた。  
荷物、村野さんのろう下へお  
いた。さうしてなにももたな  
いで、みんなそろって、田中さん  
をお送りに行った。外はとて  
も寒くて、とてもたまらな  
かった。先生が旗をわけて  
下さった。田中さんのここにこ  
なされた顔を見ながら元氣  
よく、  
バンザイ。  
をとなへた。田中さんは、  
らずにここにこしながら、

いっしょけんめいにやめて下さい。  
とおっしゃった。私は急に寒さ  
もわすれてしまった。

○田中さんに負けずいっしょけんめい  
と思つた。今日は四年と六年の  
面會日だ。

午前中おままだとをして遊んだ。  
私は御飯をつくる役をした。とて  
もおもしろかった。お晝  
お晝のぐちさうに、おめし三匹  
一つ一ついた。とてもおいしかった。  
午後三時頃、松本先生がかく  
ぼうをかぶっていらつしやうた。  
田中さんに負けずいっしょけんめい



十月十六日

みんな、エーヤーエーヤーといって松本

先生の方へかけよった。松本先生

はにこにこしていらつしやう

た。今日のお八つはさつまい

も二本づつだった。あまなくて

とてもおいしかった。

夕食をいただいてみると、弘

田先生が大本營發表をおしへ

て下さった。なかう空母艦が

世々又撃沈後はを聞いて

私はびっくりした。

サツマイモ



十月十六日 月曜日

今日は文部省の方々が私達の

疎開學園の様子を見にいらつ

しやるので、一時間目と二時間

目はお掃除をした。私たちが

二部五・六年は、たなのせいと

んと、たたみをおいてあつ

たところをお掃除した。

お掃除が終わってから、にはとり

があまりないので、にはとりご

屋の所へ行くと、たまごが一つ、

ろがってゐた。私は

「あらにはとりがたまごうんだ

わよ。」

と大きなこゑで言った。するとそば

にゐた界井さんや松岡さんが

「あらにはとりがたまごうんだ



「あらほんと。どこに。」

「ほう草のところ。」

「ほんとだあはは。」

といひながら、先生をさがしに

いった。森先生がちやうどろう

かのお掃除をしていらっしやう

たので、

「先生にはとりがたまご生み

ました。」

といふと先生は手をたたき

ながら、いらっしやうた。には

とりを介へおひだしてたまご

を取った。とてもあたたかい。

今日のお八っはさつま

もだった。

とてもおいしい。

こつまいもをいただいてみると

本營發表が入った。水はんた

いのをぢさんは、バケツをもったま

まうザオのそばへかけつけた。

かう空母艦十三隻撃沈はを

聞いた時は皆

わ。

わ。

といった。そのあとでみんな

さいとう先生にあはせて

大日本帝國萬歳。

をとになった





十月十七日

火曜日

だな

今日は神なめ祭だ。

神様

朝會には、初穂にあわがそ

なへてあった。九時半から、

体れん大會のおけいこをし

た。始めはリレーをした。

赤白にわかれてやった私は

白だった。二回やったが、二回とも

白のかちだった。私はとてもう

れしかった。

その次は、遊ぎのれん習を

した。工場をやった。去年な

らったのと思ひだしながらやった。

だいたいもうわかった。

その次は、つなひきをした。

で赤白にわかれてやった。

一回めは、おもしろいやうにづ

るずる赤を引きづってしまつて、

私たちのかちだ。二回めははん

たいに、私たちがづるづる引か

れてしまった。一たい一であわい

こだった。

午後はお話會だが、私たち

はお風呂へ入った。あつくてあ

つくてなかなかはいれなかった。

お風呂から出てから、かみをか

てもらった。とても氣持よくな

た。

歸りは、雨が降って來たので

三四年生のかさをおかりして歸っ

た。



十月十八日 水曜日  
 今日は曇りだ。午前中はお部屋の中で授業をした。  
 二時間目の図工は、私たちがさげてみたいかと思ふふくろをかいた。とてもむづかしかった。  
 午後から外で授業をした。四時間目の算数の時間に通分といふことをならった。  
 六時間目の音楽の時間に新しい歌をおならひした。  
 「進め疎開は勝つためだ」といふのだ。このうたはちゃうど私によい歌だ。今日は一番だけならった。

今日のおへつはビスケット四つづつだ。とてもおいしい。  
 十月十九日 木曜日  
 朝相良さんにゆり起されて起きて見ると、外はザーザーと雨が降つてゐた。傘がさをして郊外園へ向つた。  
 朝おれしがついた。とてもおいしかった。





お八つにビスケットニつづつだ、  
ビスケットも姪はりらしい。

夕飯は、すいとんだけだっ  
た。とてもおいしい。あつく  
てあつくたまらない。私は  
配食當番なのでゆっくり  
たべでもいられなかった。  
五はいぐらゐいただいた。  
とてもあながたくれた。



十月二十一日 金曜日

今朝の御飯は、新米だった。  
白くとてもおいしい御飯だ  
た。私はお百しょうさんや兵隊  
さんかたにかんしゃをしていた  
だいた。

三時間目のお裁縫の時間に  
防空用上着のかた紙を取った。  
だんだんお裁縫もやくにたつやう  
なものをつくろやうになつたので、  
とてもむづかしい。

四時間目の口史の時間は林の中  
へ行つてやつた。遠くの方で、  
リンリン。



と虫の鳴くところが多過ぎてきこえて  
とても静かな所だ。六年生  
がお風呂たぎでいらつしやろ  
ないので、ふくしゅうをして  
から、八鍬先生が名前をみん  
なおぼへていらつしやらないの  
で、名前と、自分の生れた所  
と今の家と、お父様の~~つとめ~~  
おらつしやる所とを行つた。  
六時間目にお風呂へ入った。  
今日は名~~め~~ぼ順なので一  
番だった。とても氣持よく  
なつた。  
夕飯は昨日とお同じにすい  
とんだけだった。とてもお  
いしかった。

十月二十日 土曜日  
今日は行軍だ。朝五時十分  
に起きた。外を見ると、風が吹い  
てゐた。空もくもつてゐて、お  
天氣がとてもあやしい。  
晴れるといひな。  
と思つた。  
お食事の時、とうとう雨が降  
りだした。  
つまらないわね。  
と話し合つた。さうして、お部屋へ  
入つて、日記をかいたりした。  
三時間目の理科の時間に  
電氣のけんきうをした。ど  
こからどこへ行つてゐるかを、  
けんきうした。午後から日が出



てとてもよいお天気になつた。

今日のお八つはえだ豆だった。とてもおいしかった。このえだ豆はさい後のえだ豆なので、とてもおいしかった。明日は面會日だ、お天氣になりますように。



十月二十二日 日曜日

今日は面會日だ。うれしくてうれしくてはね起きた。外はとてもよいお天気だ。

今日はお母様とても早くいろ

しかった。田島さんのお母様とい

しよにいらつした。弟も来た。

・暖い所におざしきを作つて、荷物を開いた。今日はたくさんいろ

いろな物を持って来て下さった。

私もいろいろな物をかへした。

仲よしの弟が来たのでうれしくて

いっしょに遊んだ。とてもおもしろ

かった。三時のお八つの時にお母

様はお歸りになったなんとなくさびし

い氣がした。お八つはあまいあまい

コー茶だった。

面會日かとても

もみじかいやう

な氣がした。

面會はうめ





十月二十三日 月曜日

今日は朝から靖国神社に  
いじ大祭だ。

朝からあさっての体錬大会  
のれん習をした。だんだん日も  
せまくなって来るので、いっしょう  
けんめいやった。リレーは今日は白  
が負けてしまった。とてもくやし  
かった。

午後からどんぐり拾ひに

行った。さい藤先生は

どんぐり山のどんちゃんちゃん

とふしをつけてうたっている

しやった。とてもおもしろかった

今日のあべはくり四つづつ  
だ。でも大きな大きな

くりでとてもあまくておいしか  
た。



十月二十四日 火曜日

朝とても寒かったので、畠の真

中へおいすを持って行って日向ぼ

こをした。とてもあたたかくて

よい所だ。

午後から、防空ろん習をした。

防空がうの入る所をきめた。

モ門先生は

「ここがみんなの死にばしよた。」



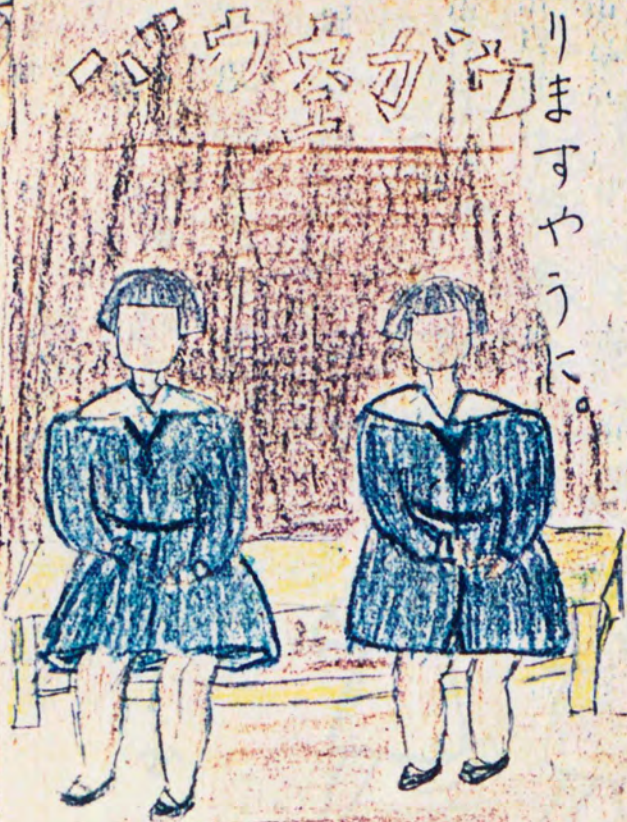
ここをはかばかだと思つてゐな  
さい。

とおつしやうた。私はなんだかへ  
んな氣がした。

それから明日の体鍊大會  
のあけいこをした。サ子は遊

ぎをした。入る時と出る時の  
あけいこもした。

明日はどうぞお天氣にな  
りますやうに。



十月二十五日 水曜日

今日は体鍊大會だ。うれしく  
たまらない。外はとてもな  
いお天氣だ。

なつかしい學校。殘留組の二

年生は、もう元氣で用意して持

てゐた。八月二十一日におかれ

したお都屋に入ると、なんだかへ

んな氣がした。お机やおひすとも

ひやしびりだ。私の場所に荷物

をおいて運動場へ出た。ひろび

ろとした運動場ひよんひよんとび

あかりながら、見學の場所へつ

いた。

どーんとどーん。

とひびくたいこ。体鍊大會が始



た。合同体操が終つてから、す  
ぐにリレーが始つた。三年四年がす  
み私たちの番が来た。私はき色組  
だ。

ホストルの音といふしよにかけだした。  
いしやうけんめいはいはした。さうして  
次にはじる人にばとんをわたした。  
私のむねはまだどきどきしてゐた。  
お晝はこちろで  
作った御飯をい  
ただいた。パン  
にさけかんそれ  
からまめの御飯  
とてもあながかぶく  
れた。今日は一日とても楽しかった。



十月二十六日 木曜日

今日はなにかもしようどくを  
した。食器はせんがわつしようど  
くをした。

午前中は、自田の穴ほりを  
した。いやべるでエにさすと、  
さくつととても氣持のよい音  
がした。一班は四人だけなので  
二班の方にお手傳ひしていた。  
いた。

今日はおへつにさつまいもが出  
たとてもおい  
しいさつまい  
もだ。





十月二十七日

金曜日

今日は雨なのでお部屋でおべん  
強をした。

二時間目は頭を洗った。ひさしぶ  
りなので、一度ゆすいでもおゆが  
まづくろになるくらいだった。  
とても氣持よくなった。

午後の時間は石田先生に  
お話をしておたいた。とてもお  
もしろかった。それが終ってから、  
お風呂へへった。とてもよい氣持だ。  
お風呂から出てお入つをいただい  
た。さつまいものお入つだ。さ  
つまいもはいったなくてもあき  
なくて、おいしい。

夕飯はすいとんだった。

十月二十八日

土曜日

午前中六年生が東村山の國民學校  
へこの間のおれいにお手紙を持  
てだいた表で行って下さった。それで  
私たちは午前中はだいたい自由  
自習をした。

午後は二時間づいて算數  
だった。こんどのお時間は算數  
のおしるべをするさうだ。いっし  
うけんめいしておかう。

村野さんへ歸ってから七時の  
ほう道を聞いた。神風しきしま  
隊の發表があった。

私たちはこの兵隊さん方に負け  
つにいっしうけんめい勉強しやう。  
中二次隊と決と統と事とふ



十月二十九日 日曜日

今日は四年と六年の面會日

だ。空は青空、とてもよいお天気だ。六年生は、大きな荷物を手に持ってにこにこしているらしい。

朝會が終つてからお洗濯を

した。私はハンケチとふきんを洗った。お洗濯がすんで自分

のせきへつくと先生が、

「五年生は日記を出しなさい。」

とおっしゃった。私はとてもた

まつておたのであわててしまつ

た。みんなも、

「わーたいへんだ。先生ま

だかいてありません。」

「私まだ二十五日よ。」

私 二十三日よ。

といったりしていたので、先生に、

「おぼえてゐるのか。」

といはれてしまった。もうこんどからためないで、毎日わすれづかかうと思つた。

午後から二部五年は弘田先生につれられてふとん干に行つた。

今日は二部と三部のだけ干れた。

私と鬼鬼澤さんと大島は、ふ

とんの番をした。こざをしいて、

きせかへ人形をつくつてあそんで

みた。いろいろの小供がまわりに

あつまつて見るのではづかしいやう

な氣がした。だんだん空も



やうがへんになつて來たので  
ふとんを入れて歸つた。  
歸るともう面會人もおな  
かつた。お机には、さつまいも  
のお八つがまゐつてゐた。



十月三十日

月曜日

朝起きてみると雨がざあーざあー  
と音を立てて降つてゐた。私は長ぐ  
つを持っておないのゝであしだをはい  
て行つた。とてもあるきにくかつた。  
三時間目は喜門先生がゑらい方の  
お話をして下さつた。私もこの方方  
に負けず平生の務おこなひをり  
にしようと思つた。

四時間目は算數のおしらべがあ  
だ。私はおちついてやつた。

五時間は一Classと二Classでお風呂  
たきをした。すぐわいたので  
じゅんばんにお風呂に入つた。と  
ても氣持がよい。今日はゆっくり  
と入つた。雨はまだやみさうに



ない。早くやまないかな。



十月三十日 火曜日

昨日の雨もやんでからりとしたよいお天気になった。

四時間目は一月ぶりに武道をやった。とてもからだがあたたかくなった。

五時間目の国語の時間に、姿なき入城といふところへ入った。とてもむづかしい。しっかりやろう

作業の時は松林のせいそうをした。今日の夕食はすいとうだった。村野さんへ歸る時は、十五夜のやうな大きな大きなお月様が、ぽっかりと浮んでゐた。明月はきつとあまのこになるだらう。





十月一日

水曜日

午前中は補給しゅうへたきぎ  
拾ひに行つた。

午後後は松葉拾ひをした。す  
ると、遠くの方で「うー」といふさ  
いれんの音を耳にした。

「けい戒けいほうかしら。」

「女学校の人、空しゅうけいほう  
だつていつてゐるわよ。」

「ほんとかしら。」

「むかうへ行かない、むかうへ行  
かない。」

などと言ひながら學園に入つ

た。三部六年が、

「先生空しゅうけいほうです。」

といひながらかけて来た。私

達はすぐ、いすをもつてきめられ

にぼうくうがうへひなんした。

「にくい敵機とうとうやつて来た。」

すこししてから一二年が歸つて来た。

さうして、防空がうへ入れてあげ

た。それとてもぎゆうぎゆうづめ

だった。かんづめでも出来さう

だった。二十分ほどすると、

「空しゅうけいほうかいじよ。」

と先生がおっしゃった。

「ああよかった。」

といひながら外へ出た。

「おへつをいただいてゐるとけい

かいけいほうもかいじよになつた。

うれしくてたまらないでも安心は

出来ない。又いつ敵がやってくる

かわからない。心をひきしめて

いよう。



十月二日 木曜日

夕べ又けいかいけいほう發令になつた。空しゅうけいほうにならな

いといひなと思ふ。二時間目のお裁縫の時間は先生にかた紙のおき方を習つた。

午後は二班・三班がごふじゅう

掃除で私たち一班・四班は、さつまい

もの煮の皮むきをやつた。みなつ

のお机に集つて、真中にかごを

おいてやつた。いっしゅうけんめい

やつたのでいたつた七人でも、とて

もたくさん出来た。

そのあとでお風呂に入つた。と

てもよい氣持だつた。



十一月三日 金曜日 雨

今日はおめでたい明治節だ。朝起き

で見ると雨が降つてゐた。郊外園へ行

く道の兩がには、きれいな菊の花が、

雨にぬれながらも、にっこりと笑ひな

がら咲いてゐた。あまりかはいらしい

ので、取つて行きたいほどだつた。

お成は九時半から始つた。有がたい

おちよくごをお聞いてゐるとべがひ

きしまつて、一生けんめいに勉強しやう

とべにちかつた。式が終つてお晝ま

ど自習なので、田島さんと二人で、

加藤先生におはがきを畫いた。

お晝はとてもあまいきんとんが出

た。私のだいこうぶつだ。

午後から、明治節祝賀演藝大

會があつた。司會者は阿部先生だつ

た。今日は次目次が九番まであつた。



歌やお話があつて、とてもおもしろ  
かった。今日のお話會は笑ひで終  
つた。

歸りは、雨がづいぶんひどくなつ  
た。風も吹いて來た。私はかさかと  
ばないやうにしゃかりと持て、足も  
とに氣をつけて歸つた。水たまりは  
あしだをはいておてもうづまるほど  
の水たまりだった。まるで川を  
あるいてゐるほどだった。もう  
雨の日はへいこうした。



十月四日 土曜日 晴

きのふの雨もからりと晴れてとても  
よいお天氣になった。

朝食の時にいわしのにたのが出た。  
とてもおいしかった。

朝會のあとで、ぼう空がうにのせて  
あつた、たたみをほした。水をすひ

こんでゐるのでとてもおもしろい。ナ  
で持ってもまだおもかつた。よいし

よいしとかけえをかけて持った。  
午後は作業だ。二部五、六年は、な

たも才役わりがないので、なにをし  
てもよいといふ事になった。私は日

記がたまつてゐたので日記をかいだ。

夕方、だんだん雲が多くなつて來て、  
雨が降りさうになつて來た。明日は雨

會日だ。村野さんへ歸つてから、みんな  
觀めん様に朝日お天氣になりますやうに  
とおいのりした。



土月五日、日曜日 雨のち晴

今日は面會日だ。うれしくてたまらない。朝起きて見ると小雨が降ってゐた。

「晴れますように晴れますように。」

とバて言ひながら郊外園に向つた。

今日はお部屋で面會する事になつた。

私は大島さんと二人でお手玉をしてお母様のいらっしゃるのを待つてゐた。

すると田島さんが、

「乙葉さんのお母様今日御用があつてお書からいらっしゃるんです。」

とおしへて下さつた。三十分ほどすると警報、戒警、報發令になつた。

「面會中止。」

とおっしゃつた。さうして、私達は

すぐ集合していすを郊防空がうへ入れ

た。私と七理さんと松岡さんは、山口先生につれられて、みんなの防空ふくさうを取りに行った。途中まで行くと空しゆう警報になつてしまつた。すぐ父兄の方々もお入りになつた。

「面會日なのに、ずいぶん思ひがけないな。」  
と思つた。防空がうの中は父兄の方がいらっしゃるのでわりとべ強かつた。たいくつびたいくつでたまらなかつた。一時間半ぐらゐして、空しゆう警報がいじよになつた。ほんと安心して外へ出た。時計を見るともう十二時だつた。すぐお食事をした。せつかくの面會日に、不へんな事がおこつたなと思ひながら、おいしくお食事をいただいた。すんでか



らまた防空ふくさうを取りに行  
 った。みんなのをあつめてふろ  
 しきにつつんでかたにせおってまた  
 歸った。もうあと一足でつくとい  
 ふ時に警戒警報戒じよになっ  
 た。私は、せうかくもって来たのにか  
 いじよになつてしまったので、もう  
 あるくきにならなくなつてしまつた。  
 荷物をおろしてからすぐお風呂  
 へへった。つかれもなほりとてもよ  
 い氣持になった。お風呂から出る  
 と相良さんが、  
 「乙葉さんお母様がいらつしやうた  
 のぢやないの。」  
 とおつしやうた。まさかと思ひな  
 がら門の所へ行つて見るとお母  
 様がいらつしやうた。もういらつしや  
 ないものと思つておたのにいらつし

やつたので、とてもうれしかった。  
 するとすぐお八つになつてしまつた。  
 お八つは、おいしいあまやけたつた  
 お母様はこの間茂子お姉様の所へ面  
 會にいらつしやうたさうだ。お姉様は  
 一學期に一回だけしか面會がない  
 さうだ。私たちはそれにくらべる  
 と、ずいぶんよいのだ。有がたく  
 てたまらない。今日はお母様と  
 すぐおぬかれしてしまつた。でもす  
 こしでもお母様とお合ひできたの  
 だとてもうれしかつた。





十一月六日 月曜日 晴  
朝會の時はかけあしをした。

よいしよよいしよ  
とかけごみをかけて、元氣にかけた、  
寒さはどこかへ吹き飛んで、ほかほ  
かと暖かくなった。

午前中は補給しゅうへたきぎを取  
りに行った。途中まで行くと、ほー、

とさいれんが鳴りだした。警戒警報  
報發令だ。すぐもどって、ふくさうを

ととのへいすを都防空がうへ入れ  
た。十一月になってから、警戒警報

が發令になつてばかりゐる。よほど注  
意してゐなくてはならない。

それから二時間目から、平生通り  
授業をした。二部五・六年は、喜門

先生に、いろいろなお話をしていた  
だいた。お晝はお部屋の甲でいた

だいた。ライスカレーだった。と  
してもおいしい。御飯をいただいて

みると警戒警報戒じよになつた。  
みなうわーとかんせいをあげた。

午前中いかれなかつたので、午後は  
補給しゅうへたきぎ拾ひに行った。

歸は、堺井さんといつしよに、お  
もいたきぎを、持って歸つた。

歸るとすぐお八つだった。今日の  
お八つはおせんべいだった。

夕御飯まで、日記を書いた。する  
と、ずいぶんつめたい風が吹いて来た

ちよつと空を見ると、おめし雲があ  
ちこちにひろがつてゐた。

歸りは防空すきんががって歸つた。





十月七日 火曜日

今日はとても寒かった。朝御飯の後で、鬼澤さんと、おいすを暖いところへ持って行って、日向ぼっこをした。からお手玉をして遊んだ。

二時間目の音楽の時間は勇しい特別攻撃隊の歌をおならひした。私はこの歌が大好きだ。

四時間目の武道の時間は、よいお天気なのでおさんぽに行った。すると「ぼー」といれんの音がし

た。警戒警報発令だ。すぐにかけ足でもどった。防空くさうをして、自分のせきにもどった。すると遠くの方で、「ボンボン」とかいうや砲の音がした。すると「ボン」と空しゅう警報のさいれん。すぐいすを防空がうに入れて、ひなんした。飛行機のばく音、高いや砲

のひびき、私たちはだまって、防空がうに入つてゐた。とても永い。だんだんたいくつになつてくると、ぬむくつてぬむくつてたまらなくなつてしまつた。一時間半位してから、空しゅう警報戒じよになつた。外へ出た時

とてもまぶしかった。先生のお話を聞くと、敵機が一機上空にあらはれたさうだ。おみ八つはコー茶だ。とてもあまかった。夕御飯まで日記を書いた。すると警戒警報も戒じよになつた。とても





十一月八日 水曜日  
今日は大しゃうぼうたい日だ。

朝私はお掃除當番だった外へ出て見ると、とても寒い。本

きなほうきで落葉をはいた。

とてもたくさん落ちてゐる。さあ、さあーと氣持のよい音がする。だんだんと暖くなつた。

やつと終わったころは、もうみんなせいれつして、私たちのくるのをまつてゐた。私はいそいでしたくをして、靴の中へ入った。

朝はまぐろのにたのがついた。とてもおいしかった。

一時間目は慰問文を書いた。今月は北支の兵隊さんへ

出すのだ。

二時間目の圖畫の時間は、  
気のぐだ。手がかじかんでお

るのでなかなかやりにくい。色をといてゐるうちに、たいこがなつてしまった。それで、ちつともぬれなかった。

三時間目が終ると雨がぽつりぽつりと降つて來たので、お部屋の中へ入つてお書のお食事をいただいた。

午後は道の落葉をかきあつめた。私と田島さんと界井さんと松岡さんの四人で、その落葉をござにのせて、ねんりやうのためであるところへ運んだ。

それがすんでから、たき火にあつた。とてもあたたかい。三部四年の岩倉さんは



火の中へどんぐりを入れて  
やけると取りだして、

「ああおいしい。」

といふながらぽりぽりたべて

ゐた。すくしてからお風呂へ入

た。私は一番あとだったの

で、ゆつくり入った。とても氣

持よくなった。夕飯はすいと

んだった。雨が降り

帰りはとうとう

だしてしま



電氣係

又



集團疎開日記

二部五年

乙葉裕子

見はえは悪くとも東へ入る  
に次第で立派な  
日影帳をつけよう

三十三